



本郷台中だより

～明日も行きたい本郷台中学校～

令和8年度第4号

令和8年7月13日

文京区立本郷台中学校

校長 工藤 邦彰

○自ら学び、考え、行動する生徒。 ○互いを思いやり、尊重し合える生徒。 ○豊かな心を持ち、心身ともに健康な生徒。

「夏季休業日」の意義を考える

「夏季休業日」とはいつのことですか？

このように問われて、正確に答えることはできますか。一般的には「夏休み」と言われる期間ですが、全国一律ではありません。東京都の期間と比べると北海道や沖縄では異なっているのですが、期間は一般的に「学校管理運営規則」と言われる規則によって定められています。

「文京区立学校の管理運営に関する規則」によると、「7月21日から8月31日まで」が夏季休業日と定められています。一方で「札幌市立学校管理規則」によると、「7月10日から8月31日までの間において25日」となっています。一見では札幌市の学校の方が、夏休みが早く始まり、文京区よりも長くあるように見えますが、注視して見ると「25日」となっているの、学校によって夏休みの始まりと終わりが異なり、期間としては「25日」ということが分かります。文京区立学校は「42日間」（カレンダーの関係から令和8年度は18日から休みに入るの、実質「45日間」）ですから、札幌市の学校と比べれば、文京区の学校の方が2週間程度、夏休みが長いことが分かります。

これはどうしてでしょうか。あえて北海道の学校を例にもってきていますから、気付いた人も多いかもしれません。そうです。「気候」が影響しています。東京都はいわゆる「酷暑」の期間が長く、人が多く集まる「学校」で学ぶには厳しい日が北海道よりも長いため、伴って夏休みも長くなっているものと考えられます。

ここで疑問に思った人も多いことでしょう。そうです。現代は空調を整える設備が完備されており、「学校が学ぶには厳しい環境」とは言えなくなっているはずなのに、夏休みは長いままなのです。どうやら、無駄に(?)長い夏休みの意義を真剣に考える必要があるようです。

比較的古い資料ですが、東京都が「夏休み」をどのように考えているのか、その一端が分かる通知がありました。

「夏季休業日は、生徒がゆとりの中で自己啓発に努め、自らの将来にわたる在り方生き方を考える上で有意義な機会です。各学校においては、生徒が夏季休業日の意義を十分に理解し、心身共に健康で安全に充実した日々を過ごすとともに、夏季休業日以降も希望をもって学校生活が送れるよう、全教職員の連携・協力の下に指導する必要があります。」(20 教指高第 160 号 平成 20 年 7 月 3 日)

この通知から読み解けば、夏休みの意義は、生徒が「自己啓発に努め、自らの将来にわたる在り方生き方を考える」機会であり、教職員は「夏季休業日以降も希望をもって学校生活が送れるよう」支援する必要があるということなのだと考えます。

生徒のみなさん、夏休みが間近に迫ってきました。目標をもって夏休みに臨み、「自己啓発に努め」、一回りも二回りも成長して、9月1日、学校に帰ってきてください。みなさんが大きく成長できるよう、そして「夏季休業日以降も希望をもって学校生活が送れるよう」、教職員一同、支援していきます。

私は9月1日も、みなさんと元気にあいさつができることを楽しみに、校門で待っています。

※学校HP「本郷台中日記」をほぼ毎日更新し、日々の様子をお伝えしています。是非ご覧下さい！